

11月・12月の管理ポイント

株式会社 トモグリーン・ケミカル
第171号 2021年11月1日発行
当社ウェブサイトにてバックナンバー掲載中
<http://www.tomo-green.com/>

10月後半から急に気温が下がり一気に冬らしくなってきました。冬季は芝の生育が低下していることからダメージが目立ちませんが、低温や乾燥などのストレスにさらされます。冬越し準備として栄養補給や乾燥対策を行っていきましょう。



タンクミックスにお勧め

グリーンシナジー

近年は昨年の冬のように非常に乾燥した冬が続いています。冬の乾燥害は春や夏に比べて目立たないため軽視されがちですが、実際はドライスポット発生の原因になっています。また冬の乾燥により、春のコウライの立ち上がりが遅くなることも問題視されています。

グリーンシナジーは様々な資材と相性がよく、タンクミックスしやすい界面活性剤です。肥料、ミネラル、糖、アミノ酸などと混用すれば、水と一緒に根圏の隅々まで行き渡り、与えた養分を無駄なくベントに届けることが出来ます。経済的な資材なので、散布の度にご使用頂けます。冬季にも定期的な予防散布による乾燥対策を行いましょう。

使用量：1～2ml/m²/月 敷布水量：100ml～1l/m² 使用方法：資材の散布時にタンクミックス

栄養補助剤で
植物内の代謝を活性化

ターフサプリ

肥料では補えない栄養素を芝生に供給する『栄養補助剤』です。植物内の代謝を活性化させ、芝生の健康維持やストレス回復などの効果が期待できます。肥料との混用で吸収を促進し芝生の貯蔵養分を増やすことにより耐寒性が向上し、代謝促進により色出し効果がアップします。

ベントグリーン 使用量：0.1～0.3g/m² 100～500ml/m² 敷布
コウライグリーン 使用量0.3～0.5g/m² 100～500ml/m² 敷布

冬季のサッチの除去
土壌微生物の健全化

センター

サッチ・マネージャーW

本剤は自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力があり、低い温度でも活性の高い有用菌を選抜した微生物資材です。低温期のサッチ分解能力が高く、春期の気温が上がる時期までにゆっくりとサッチを分解します。酵素剤のサッチクリーナーと、目的や環境により使い分けて頂くことがお勧めです。

使用量：グリーン. 0.25～0.5g/m² 敷布水量0.2～0.5l/m²

病害予防に

グリンオキシラン水和剤

グリンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、年内最後の殺菌剤としてお勧めです。

使用量：ベントグラス_希釈倍率300-500倍 1-2l散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1-2l散布/m²

芝生の耐乾性
耐寒性を高めましょう

リーフシールド

リーフシールドで茎葉部をコーティングすると、蒸散を抑制し、芝の乾燥を防ぐと共に葉面温度の低下を軽減出来ます。着色剤と組み合わせると、葉面温度が上昇し霜が早く溶けます。

希釈倍率：200-400倍 敷布水量：100～300ml/m²

自然な色調の着色剤

カラーメイトF-20

カラーメイトF-20は、従来品に比べ、季節感を重視した落ち着きのある自然な色調(ダークグリーン)に仕上がる着色剤です。物理性(固着性、速乾性、色持ち、色乗りetc)や安全性にも優れています。お求めやすい価格なので、フェアウェイなど広範囲でもご使用いただけます。

使用量：50～100倍 100～200ml/m² 敷布

貯蔵糖類を貯えましょう

グリーンメカ

生育期の11月は糖類の消費が多くなります。十分施肥しても日照不足で光合成が十分に行えない場合、糖類の消費が追い付かなくなります。足りない消費分を補い、さらに冬の貯蔵分も十分蓄えるため、グリーンメカを処理して糖類を十分補給しましょう。貯蔵糖類を十分に蓄えた芝は、耐寒性耐凍性が向上し、来春の生育が良好になります。

使用量:2～10ml/m² 敷布水量:1l/m²

コース管理の薬剤散布では、多くの場合複数の資材を混用して散布します。また作業を省力化するため少水量散布が主流となっていますが、その場合タンク内の散布液の濃度はより高くなります。

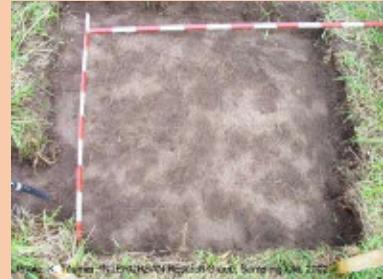
今回は資材の効果をきちんと得るために混用時の相性が良い資材、悪い資材の組み合わせを紹介します。

相性の良い組み合わせ



・農薬・液肥 + 界面活性剤(土壤浸透剤や展着剤)

農薬の有効成分や肥料成分が土壤中にムラなく浸透する。
展着効果により、葉面散布剤が効率的に作用する。



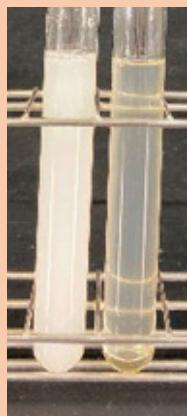
・栄養剤(糖類) + 殺菌剤

糸状菌などの病原菌に糖類が消費されるのを防ぐ。

・リン酸 + マグネシウム

マグネシウムとリン酸は共に吸収され、植物体内を共に移動する。

界面活性剤(土壤浸透剤)を添加することで、肥料ムラや農薬の効果ムラの原因になる土壤中の水ムラを予防・改善できる



通常の散水時には葉の表面で水が弾かれ水滴になる



界面活性剤(展着剤)を添加すると、散布液が水滴を作らず葉全体にムラなく付着する

界面活性剤による乳剤の可溶化
左:スミチオン乳剤1,000倍希釈液
右:界面活性剤添加

相性の悪い組み合わせ

・強酸性資材 + 強アルカリ性資材

有効成分が分解してしまい、期待する効果が得られなくなる。

散布液が凝集し沈殿してしまう例
着色剤+硫酸第一鉄

・微生物資材 + 殺菌剤

有用微生物が散布前に死滅してしまう。



混合した直後から
凝集が起こる

凝集した成分が
沈殿してしまう

・着色剤 + 凝集効果のあるもの (硫酸第一鉄など)

着色剤に含まれる糊成分や顔料が凝集・沈殿し、散布時にフィルターに詰まってしまう。色の乗りも悪くなる。

・カリウム、マグネシウム、カルシウムの吸収阻害

互いに拮抗作用を持ち、バランスが悪いと吸収阻害を起こす。

今回紹介したように薬剤を混合散布する際、資材同士の相性は非常に大切です。

またきちんと中間液をつくる、タンク内に投入する順番を考慮する等の工夫によって、凝集などを防ぐこともできます。
散布前には資材のラベルの注意事項を確認し、散布液の混合を行いましょう。